

平成30年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

臨床写真



ア

イ

ウ

エ

オ



カ

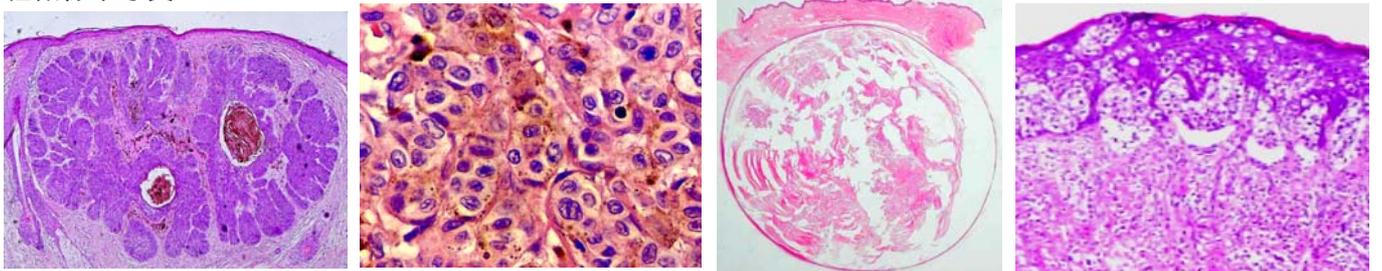
キ

ク

ケ

コ

組織標本写真

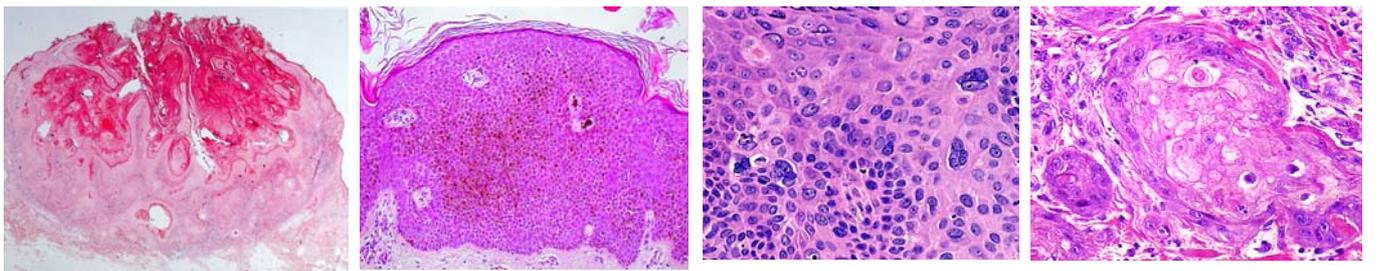


1

2

3

4



5

6

7

8

各文章を読み()内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患の臨床写真から写真(ア～コ)を[]に、組織標本(1～8)を選んで< >に記入しなさい。(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)。最後の2問は、()内に適切な答を書きなさい。

1. 良性腫瘍であるが、短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うと()と呼ばれ、()の合併率が高い。この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は< >である。視診診断では皮膚悪性腫瘍である()や()との鑑別診断を要する場合がある。

2.皮膚良性腫瘍の中では頻度が高く、ときには「脂肪のかたまり」と間違えて説明されることもある嚢腫である。切開して内容除去しても多くは再発し拡大するため()する必要がある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は< >である。

3.従来より皮膚良性腫瘍の1つと分類され、自然退縮することもあるが、有棘細胞癌との鑑別診断が難しい場合のある皮膚腫瘍である。最近の診療ガイドラインでは、()の治療を勧めている。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は< >である。

4.良性腫瘍の中には、押さえたり、さわると飛び上がるほど痛い腫瘍の()がある。

この臨床写真は[]である。

5.皮膚粘膜の表皮内癌の1つで、体幹・四肢などの被覆部に好発する境界明瞭な紅褐色局面である。放置すると()になる。多発性の場合には()が原因のことがある。

また、()の合併率が高いため、精査が必要である。この腫瘍は()で、

その臨床写真は[]で、組織は< >である。組織所見で特徴的細胞は()である。

6.湿疹様紅斑や()として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に腫瘤がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では()や()と誤診されることがある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は< >である。

7.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では()に生じる割合が多い。母斑細胞母斑との鑑別診断では、この腫瘍の特徴をABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、このAの意味は、日本語では()である。

この腫瘍の組織診断のための検査では、なるべく()とすべきである。

また、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は< >である。

最近では治療薬剤の開発が進み、根治切除不能な場合は、摘出組織の()の有無によって、薬剤の使い分けを検討し()や()を用いるようになってきている。術後や薬物治療中の経過観察には()検査を半年～1年毎に行うことが多い。

8.高齢者の頭部に稀に生じる悪性腫瘍であるが、頭部打撲の後などに生じ、最も悪性度の高い腫瘍の1つである。この病名は()で、臨床写真は[]である。従来は摘出植皮も行っていたが、最近では()と()で治療するが、それでも非常に()が悪い。

9.虚血肢の臨床的分類の1つにフォンテイン分類があり、そのIV度は、()や()である。この場合の治療は()か、()である。

10.植皮は採皮の方法で大きく分けて2つあり、1つは全層植皮で、この長所は()しにくい点である。しかし()という短所がある。全層採皮の採皮部は、()して閉創する。植皮の失敗の原因は()や()がある。

3年生()番 氏名()